

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

多くの企業に欠落しているのは賃上げである 鈴木 茂晴（大和証券グループ本社名誉顧問）

1. 将来に対する不安からさまざまな可能性を模索する人が増える過程で、「副業」という働き方が注目されているが、個人的には筋の立たない話と感している。そもそも、なぜ働き手は将来に不安を感じるのか。制度や待遇を整備し、社員に不安なく働いてもらう企業努力が足りないからだ。成長を感じてもらえる研修制度の整備や、働きがい高める給与体系といったものに経営資源を投入しないから、社員は不安を感じているのである。
2. 多くの企業は、従業員の副業を「就業時間外」に行うよう規定している。いくら本業に差し支えない時間とはいえ、夜や休日の空いた時間に別の仕事をしていたら、そのうち本業にも悪影響を与えてしまうのではないだろうか。多くの企業に欠落しているのは、従業員の働きに見合った金銭的報酬、すなわち賃上げなのではないか。
3. 日本企業は以前に比べて株主への利益配分は厚くなったが、従業員にはほとんど変わっていない。いやむしろ少なくなっている。働きに応じた処遇を整備すれば、従業員のモチベーションは上がる。その結果、生産性も上り副業を考える人も出なくなるだろう。

(参考:「日経ビジネス」2022年12月12日)

経営者のための理念・哲学

「慈悲や優しさ」と「厳しさ」の2つを備える

横田 南嶺（臨済宗・円覚寺派管長）

1. 私がつくづく思うのは、人間は相反する二つが備わって初めて成長していくということです。東洋古典という陰陽はまさにそうですが、何千年の昔から言われているこのシンプルな原理に、私はいまさらながら気づいたわけです。例えば、葉っぱが散るのを見ても、風に吹かれて散っていると見るか、葉っぱが最後の命の中で精いっぱい舞っていると見るか。後者の姿こそ学ぶべきです。
2. 仏教では、生きる上で慈悲や優しさが大事だと説きます。しかし、それと相反する人を寄せつけないほどの厳しさ。この二つを備えていなければ本当の慈しみにはならないのではないか、前進していけないのではないかと思います。仏教に限らず厳しい時代を生き抜くには、やはり相反するものを備えていなくては進歩発展はないと、そう感じております。

(参考:「致知」2023年3月号)

経営者のための危機管理

日野で不正が次々と発覚 トヨタの対応に注目

1. トラック業界をけん引する日野自動車に激震が走った。エンジンの排出ガスや燃費に関する認証申請において、約20年にわたる広範囲の不正が判明し、一部の車種が出荷停止となったのだ。長年の不正を見過ごしてきた日野の組織体質について、自動車産業を所管する国土交通省の職員は「これだけ大規模な不正をしてきた日野が変わるのは容易ではない」と日野の置かれた状況の厳しさを指摘する。
2. 一方、親会社であるトヨタ自動車は、現在の小木曾聡社長まで20年余りに、6政権で延べ61人ものトヨタ出身者が日野の役員に就任しているのだ。日野の現役社員からは「不正の一因はトヨタにある」との憤りの声上がる。数多くの重役を送り込む形で日野を間接支配してきたトヨタも、組織改革の敢行を子会社の日野任せにするのではなく、監督責任を負う親会社としての対応が迫られている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2023年1月7日・14日号)

古典に学ぶ

恵眼で見ればすべて自分の親である

1. 職場や地域、友人関係、親戚づきあいなど、私たちは、日々さまざまな人間関係にもまれて生きています。その中には、気の合う人もいれば、何かにつけイラッとしたり、不快感を抱いたりしてしまう相手もいるのです。
2. そんな人と接する時、誰でも感情に振り回されてしまうこともあるでしょう。しかし空海は、「仏のような眼（恵眼）で物事を見れば、すべての人、すべての生き物が皆、自分の親である」と論じます。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす 言葉」:河出書房新社)